

ナイロビには、東アフリカ最大の貧民街（キベラ）があります。およそ南北3キロ、東西5キロの面積に80～100万もの人が住んでいます。仕事のない人、収入の少ない人、食べるのがやっとの人、仕事があってもここが好きで住んでいる人などいろいろです。

そんな中でも子どもたちは、たくましく育っています。この地域には政府に認められた小中学校が4校ありますが、1クラスの人数が70名もいると（1クラスの定員は決まっていない）1人1人を十分にみてもらうことができず、学校へ通わなくなる子どももでてきます。親がいなかったり、親戚にあずけられたり、食べ物が十分に食べられなかったり、虐待を受けたりして心に傷を負っている子どもが多いです。そのため学校へ通わない子ども、通えない子どもがいるのです。そこで NGO（非政府組織＝民間の国際協力団体）や地元の人たちが協力して学校を作り、子どもたちが安心して勉強ができる場所を作っています。



私はその中の1つ、MAGOSO School というところを見学してきました。生徒数約200名。まずはケニアの歌や民族ダンスを披露してもらいました。みんな歌や踊りがとってもうまい！歌や音楽ってとてもいいですね、このとき初めてケニアに来たんだなあ、と実感しました。ケニアには42の部族が住んでいることは前回書きましたが、それぞれの部族がそれぞれの文化を受け継いでいくことはとても大切だと感じました。そこで私たちもお礼に日本の歌を2曲歌いました。何を歌ったと思いますか。みんなだったらどんな日本の歌を歌いますか。



給食献立2007

<月>豆を煮たもの
<火>ごはん・ゆでキャベツ
<水>豆を煮たもの
<木>ごはん・ゆでキャベツ
<金>ボレツジ
粉にした穀物を水で煮たもの



【←炭火を使ってなべ1つで調理】

【←お皿は持参。トレイを持ってくる子どももいる。小さい学年から配られる↓】



MAGOSO School では、子どもたちが毎日学校へ通ってくるように給食を提供しています。貧民街の子どもたちの中には食べ物を十分に食べられない子どもがいるので、給食を楽しみにしている子どももいるのです。左上の献立表を見てください。1週間のメニューがもう決まっています。しかも週2回は同じものを食べています。どんな食べ物が好きか聞くとみんな「ニヤマ（肉）」という答えでした。この学校では肉料理はクリスマスの日だけの特別メニューなのです。

このせまいキベラの町の中では、家の土地もせまく屋内にトイレや水浴び場をもうけることはできません。するとトイレなどは道ばたなどにしてしまい、とてもくさい場所もあります。最近は少なくなってきたそうですが、夜は外に出るのが危ないので家の中でビニール袋におしっこなどをし、外に捨てていたとか。これを「Flying toilet フライングトイレ」と言うそうです。しかし最近は、共同トイレの場所を設けるなど少しずつ衛生面に気をつけるようになってきているということです。

《つぶやき》キベラへ行った後、ラングエの小学校へ来た。給食が1週間同じなのはキベラだけかと思っていたが、私の学校でも同じで1週間の献立が決まっていた。給食時間は1時間半あり、家に帰って昼ごはんを食べる生徒もいれば、お弁当を持ってくる生徒もいる。私の友達の職場では大人でも昼ごはんを食べないという。学校で給食を食べない子どもは家できちんと昼ごはんを食べているのか少し心配になった。【鶴田佳代子】

Kayoko TSURUTA
JICA KENYA OFFICE
P.O.Box 50572-00200
Nairobi KENYA